



開物成務

令和5年 9月27日(水)発行

校長 津田 千由美

子ども主体の運動会

「暑さ寒さも彼岸まで」とはよく言ったもので、秋分の日を境に、空気が少しずつ秋に近づいています。それでも昼間の太陽はまだ肌を刺すよう、そんな中、運動会に向けて学校全体が少しずつ動き出しています。

「今年の運動会は、コロナ前に戻るのですか?」「なぜ元のように戻らないのですか?」というご質問を、保護者の方からいただくことがあります。運動会は大きな学校行事であり、保護者だけでなく、祖父母の皆様も楽しみにしているらっしゃるということを知っています。

ここ3年間のコロナ禍における運動会では、種目や練習、応援の仕方等々、多くの制限がありました。

「コロナと共存しながら、どうしたら運動会ができるだろう」

私たちは、前例のない大きな問題にぶつかり、その中で「**運動会の目的は何だろう**」という原点に立ち返りました。

観客に「見せるための運動会」ではなく、当事者である「**全ての子どもたちが運動に親しみ、力をつける運動会**」であること、これこそが運動会の最大の目的であることを共有しました。

また、学校教育にはカリキュラム(教育課程)があります。学年のカリキュラムの中でどういう力をつけていくかということも、私たちは具体的に考える必要があります。

- 体育等の学習の延長であること
- 生涯を通じて運動に親しむ素地を養うこと

この2点から、「行事色の濃いコロナ前の運動会」に戻るのではなく、「**子ども主体の新しい運動会**」の形を模索しています。こうした趣旨をご理解いただき、ぜひ今年の運動会でも子どもたちの活躍を楽しみにしていただけると嬉しいです。

今回と次号の2号にわたり、運動会への取り組みについて紹介していきたいと思っております。



運動会テーマ決定

9月に入り、各学級では「今年どんな運動会にしたいか」を話し合いました。その話し合いの結果を「キーワード」として、企画委員会に提出しました。

低学年からは「きょうりよく」「えがお」「いっしょうけんめい」「あきらめない」「楽しく」という言葉が、多くありました。

高学年からは、「みんなで創る」「自分らしく」「心に残る」「仲間」「勇気」などのキーワードが出てきました。自分たちが運動会を運営していくんだという意欲が伝わってきます。

9月14日(木)には児童代表委員会が開かれ、各学級から集まったキーワードをもとに、今年度の運動会テーマが決定しました。

「全力・楽しく・自分らしく

～全校で心に残る最高の思い出を!～

このテーマに向かって、体育の学習はもちろんのこと、総合や特別活動の時間なども使い、子どもたちが自分たちで運動会を創っていきます。



運動会も150周年記念

今年、開成小学校150周年イヤーです。運動会でも、全校で150周年をお祝いしようと、ラジオ体操に代えて「かいせいマーチ」を全校で踊ることになりました。「かいせいマーチ」は、2017年度町民活動応援事業採択団体「あじさいちゃんくらぶ」がつくった歌とダンスです。

全身を動かして踊る部分があり心拍数もかなり上がるため、準備体操がわりにプログラム1番で行います。

「かいせいマーチ」練習用の公式サイトもありますので、ぜひご覧ください。保護者の皆様にもご参加いただけると嬉しいです。みんなで150周年運動会を楽しみましょう。

うれしいおたより～アサガオがつないだ心のつながり～



「あさがおが 9月13日、こんなにきれいにさきました。みちをとおりかかるさんぽのひとも、このはなに うっとり。みなさんに、よろこびがつたわっています。みんなの いっしょうけんめいに とりくんだたねで、こんなにも たくさんの人に よろこんでもらえるのですね。これからも、ここがかよう とりくみに きたいしています。」

先週、地域の方からうれしいおたよりが届きました。昨年度1年生（現在の2年生）が、自分たちで育てたアサガオの種を地域の方にもおすそ分けしたいと、開成町役場に置かせていただきました。

その種をお持ちいただいた地域の方が、今年、大輪のアサガオをご自宅のお庭に咲かせてくださいました。小さな命の種を通して心と心をつないだ、当時1年生の子どもたちの行動に感動し、お礼の気持ちを伝えてくれたのでした。すてきな出会いに、子どもたちも教職員も感動しています。

第2回学校公開のお知らせ

9月29日（金）は第2回目の学校公開日です。早くも今年度の折り返し地点となり、学級も授業も充実期を迎えています。お子様の成長を感じ取っていただける良い機会としてください。

また、12月には学校評価が行われます。項目は事前にお知らせしてあるとおりですので、お子様の姿や授業参観をとおして、より適正な評価をしていただけると幸いです。併せてPTA主催による家庭教育学級（情報モラル）も行われますので、万障お繰り合わせのうえご参加ください。

*9月22日（金）発出のマチコミメールも併せてご参照ください。

昨年度の統計によると、小中学生の不登校が24万人を超えるという結果がでました。

以前、不登校を経験された方々によるシンポジウムに参加したことがあります。当事者の方々が言われていた言葉は、常に私の心の中にあります。

「自分でもどうして学校にいけなかったのかかわからなかった。だから、『どうして?』と聞かれることが一番しんどかった」

「一番恐れていたことは、学校に行けないことではなく、だんだん人とのつながりがなくなっていくことだった」

ある日突然、子どもが「学校に行きたくない」と言いだしたら…これは、親にとって大きな問題となります。時には、自分自身を責めてしまうこともあるでしょう。

文科省も、「学校（学級）に戻すことがゴールではない」とはっきり明記しています。

ならば何をゴールに見据えるか。私は、子どもたちに自律する力をつけることだと考えています。自分で考え選び自分の力で生活できること、困った時には誰かに助けを求められること、これが子どもにつけたい「自律」する力です。不登校だからではなく、すべての子どもたちにつけたい力です。

開成小学校の先生たちは、3つの言葉を大切にしています。

「何か困っていることがある?」

「あなたはどうしたいの?」

「何かお手伝いすることはある?」

改めてそんな風に問われると答えに窮する子どもたちも多くみられます。つまり、子どもたちは「先生が言ったから」「親に言われたから」という理由で、ただ何となく動かされているという証です。

しかし、何度か繰り返すうちに、子どもたちも自分の心と向き合えるようになり、少しずつ自分の考えを伝えられるようになっていきます。

「あなたの人生はあなた自身が創るもの。あなたが幸せになるように、私たちはいつでもお手伝いしますよ」
そんなメッセージが届くことを願っています。



わたしのひとりごと